

愛媛県における弥生時代絵画土器の集成

山口莉歩

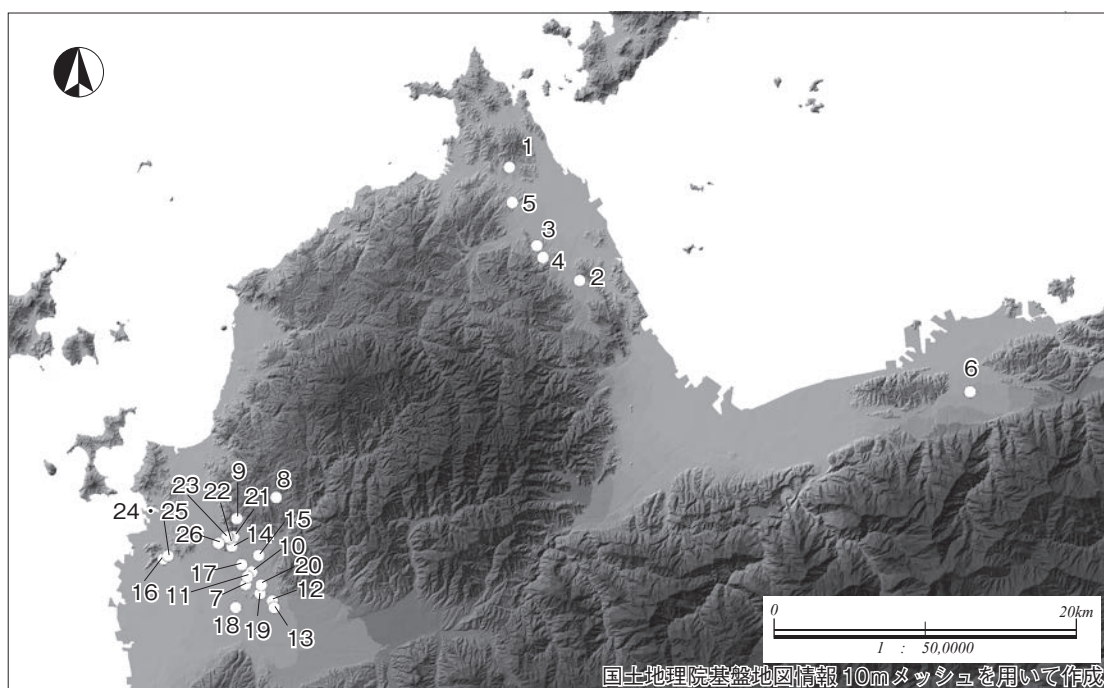
はじめに

弥生時代の土器や祭器にはいわゆる「絵画」といわれる線刻画が施され、それらは近畿地域を中心に全国的にみられる。絵画は当時の様相を伝えるものであり、特に形として残らない思想や心象世界を表現するものとして評価されている。弥生時代の絵画は、農耕祭祀や水辺の祭祀などと結び付けて考えられることが多く、社会を復元する上で重要な手がかりとなる。絵画が描かれる素材として、銅鐸や木製品、土器などが挙げられるが、愛媛県ではほとんどの絵画が土器に描かれる。そのため、本稿では絵画が描かれた土器(以下、絵画土器とする)に着目し、愛媛県における絵画土器を管見の限り集成し、その変遷と様相について検討する。

1 先行研究と課題

愛媛県における絵画土器に関しては、梅木謙一によって集成と検討がなされている(梅木2001a・2005)。梅木は絵画土器を3つに分類し、その変遷や時期的・空間的に整理した上で、愛媛県の特徴として弥生時代中期後葉～後期前半における松山市道後城北地区での壺へのシカ描写と、弥生時代終末期～古墳時代における記号・線刻の多種多様性の2点を挙げた(梅木2005)。橋本裕行は中・四国地域の絵画土器を集成した(橋本2020)。橋本は、中・四国地域では絵画土器が弥生時代前期から認められるとしつつ、弥生時代中期後葉には図像のモチーフが明らかな絵画が増加し、弥生時代後期になると記号文が急増すると述べ、これらの傾向は近畿地域の動きと同様であるとした。また愛媛県内の様相について、図像が明らかな資料は新谷森ノ前遺跡と文京遺跡に集中すると指摘した。春成秀爾は四国の弥生絵画の様相をまとめた(春成2023)。春成は四国の土器にみられる絵画は近畿の影響を受けており、具象画から抽象画への動きは近畿と同調しているとした。

橋本と春成の研究では、中・四国地域など広い範囲での概観のみに留まり、愛媛県における絵画の詳細な研究はなされていない。愛媛県を対象として詳細に検討したのは梅木の研究のみである。しかし、梅木の研究では、絵画と記号・線刻をあわせて分析しており、絵画にみられる図像についてはシカに言及したのみで、詳細な検討やその変遷に関しては論じられていない。また梅木は、松山市道後城北地区での壺へのシカ描写が行われた背景として文京遺跡と奈良県の唐古・鍵遺跡等の直接的な関係を指摘している。しかし、その後の資料の増加により、船や龍などといったシカ以外の図像も愛媛県で出土した事例が複数認められるようになったほか、松山市道後城北地区以外の各地域でもシカが描かれる土器が出土しており、梅木の説について再検討する必要性が生じている。本稿では、このような課題を解消するための基礎的な作業として、既出の集成に近年増加した絵画土器を加えて集成を行った。さらに、先行研究では絵画と記号文を並列し



1. 阿方中屋遺跡 2. 朝倉下経田遺跡 3. 新谷古新谷遺跡 4. 新谷森ノ前遺跡 5. 別名寺谷Ⅰ遺跡 6. 松原遺跡 7. 天山2号墳 8. 伊台惣部遺跡 9. 祝谷六丁場遺跡 10. 枝松遺跡 11. 釜ノ口遺跡 12. 久米高畑遺跡 22次 13. 久米高畑遺跡 43次 14. 東雲神社遺跡 15. 樽味高木遺跡 3次 16. 津田中学校構内遺跡 17. 中村松田遺跡 18. 西石井遺跡 19. 乃万の裏遺跡 2次 20. 福音小学校構内遺跡 21. 文京遺跡 22. 松山北高等学校遺跡 23. 松山大学構内遺跡 24. 宮前川遺跡 25. 宮前川北斎院遺跡 26. 若草町遺跡 1次

図1 絵画土器出土遺跡分布

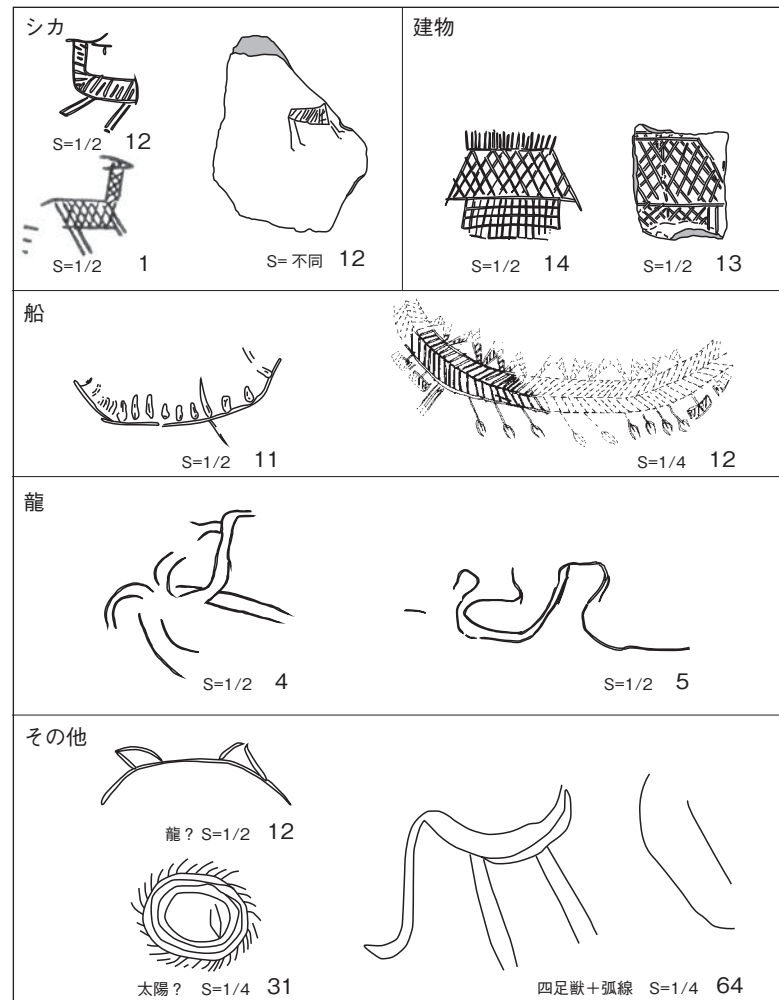
て分析されていたが、本稿では検討する対象として図像が明瞭な絵画に絞り、絵画土器の様相をより簡潔に抽出するよう試みた。その結果をふまえて愛媛県における土器に描かれる絵画の変遷と様相について言及したい。

2 集成の基準

本稿では、次の基準で集成を行った。対象とする地域は、愛媛県全域で、報告書や論文などで公表されているものを中心に集成を行った。時期は弥生時代前期から終末期とし、土器編年は梅本2000や柴田2000を参照している。「絵画」の基準については、具象絵画を基本とし、図像が明瞭でなく、文様などと区別しづらい記号文や線刻文は除外した。そのため、本稿では橋本が述べた、弥生時代後期に記号文が急増する(橋本2020)という傾向については検討できていない。図像の名称に関して基本的には掲載時の表現を使用し、掲載後他に論考が加えられたものに関しては筆者の判断により、蓋然性が高いとする名称を用いているが、福音小学校構内遺跡出土の図像については「サカナのヒレ」「ブタの耳?」「龍」など複数の表現がなされており、断定が困難であったため、「その他」として扱った。

3 集成結果と傾向

愛媛県内において絵画土器は弥生時代中期中葉から出現し、終末期にもみられる(表1)。絵画土



番号は表1と対応。12：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 2025 13・11・4・5：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 2023 18：宮崎 1991 図版編 図版 45-903 画像を筆者トレース 1：今治市教育委員会 2001 14：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 2007 25：梅木・宮内 1994 34：梅木 1995 筆者再トレース 31：梅木 2001a 筆者再トレース 64：栗田 1991a 筆者再トレース

図2 絵画土器にみられる図像例

器の総数は65点で、そのうち弥生時代中期中葉は3点、中期後葉は10点、弥生時代後期43点、弥生時代終末期は8点、時期不明1点と弥生時代後期が最多である。絵画土器の器種として最も多いのは、壺で65点中58点と大半を占めている。壺の肩部や胴部に描かれることが多く、中・四国地域で認められる傾向と同様である(橋本2020)。その他、高杯や鉢などに描かれる。

県内市町別では、松山市に多く、ついで今治市に多い。新居浜市では1例みつかっている(図1)。これらは発掘調査件数や弥生時代の遺跡そのものの数を反映していると考えられ、現段階で四国中央市や宇和島市など他地域の絵画土器について論じることは難しい。

絵画土器の図像として代表されるものは「シカ」「建物」「船」「龍」があり、その他に「人」など図像のモチーフは明瞭であるが、出土点数が僅少なものの、または明らかになんらかの図像を描いているようであるが特定が困難なものなどがあつた。本稿ではそれらを「その他」と

して扱い、「シカ」「建物」「船」「龍」「その他」と分類した(図2)。その結果、シカ13点、建物4点、船6点、龍12点、その他30点を確認した。

絵画土器の図像について時期ごとにみられる組成比と点数を比較する(図3・4)。弥生時代中期中葉では点数が少なく、図像のモチーフが判然としないものが多いものの、シカと推定される絵画が1点認められる。弥生時代中期後葉ではシカの割合が最も多く半数以上を占めており、中期中葉はその萌芽といえる可能性がある。近畿地域で中期中葉前後で盛行するシカが、同じく愛媛県で用いられており、中期中葉に出現、中期後葉に盛行するという点は重要である。また弥生時代中期後葉ではシカに次いで建物が多く、船や龍は認められていない。さらにその他に分類される図像がなく、他の時期と比較して図像が最も明瞭で具象的である。弥生時代後期は、絵画土器の出土点数が中期後葉と比較して4倍近くに増加する。船や龍が出現し、シカは減少傾向にある。また、その他と分類した図像が急増する。これは福音小学校構内遺跡出土の絵画土器が多量であることに強く影響を受けているものの、図像の多様化が進行したと推定される。終末期は中期後葉と同程度まで全体数が減少するが、複数の図像がまばらに散見される。これは、明瞭な図像が減少し記号や線刻が増加する、という全国的な傾向と同様である可能性が推測される。

絵画土器が出土した遺跡に着目してみると、新谷森ノ前遺跡や、福音小学校構内遺跡、文京遺跡といった特定の遺跡に出土が集中することがわかる。新谷森ノ前遺跡は弥生時代中期後葉から弥生時代後期まで継続的に一定数出土しており、図像についてもシカや建物、船、龍などが確認できた。特に龍の出土が他遺跡と比較し

表1 愛媛県における弥生時代絵画土器一覧

番号	遺跡名	器種	部位	形状	分類	時期	地域
1	阿方中屋	高杯	杯部	シカ	シカ	中期後葉	今治
2	朝倉下経田	壺	胴部	船	船	終末期	今治
3	新谷古新谷	壺	口縁部	人	その他	後期	今治
4	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
5	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
6	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
7	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
8	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
9	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	龍	龍	後期	今治
10	新谷森ノ前 2次	壺	胴部	船	船	後期	今治
11	新谷森ノ前 2次	鉢	体部	船	船	後期	今治
12	新谷森ノ前 2次	高杯	脚部	シカ	シカ	中期後葉	今治
13	新谷森ノ前 2次	高杯	脚部	建物	建物	中期後葉	今治
14	別名寺谷1	高杯	脚部	建物	建物	中期後葉	今治
15	松原	壺	肩部	シカ	シカ	中期後葉	新居浜
16	天山2号墳	壺	胴部	龍	龍	後期	松山
17	伊太惣部	壺	口縁部	戈かシカ	その他	中期中葉	松山
18	祝谷六丁場	壺	肩部	シカ	シカ	中期中葉	松山
19	祝谷六丁場	壺	胴部	太陽?	その他	中期中葉	松山
20	枝松	壺	肩部	船	船	後期	松山
21	釜ノ口	壺	肩部	龍	龍	後期	松山
22	久米高畑22次	壺	胴部	シカ	シカ	中期後葉	松山
23	久米高畑43次	壺	肩部	シカ	シカ	中期後葉	松山
24	東雲神社	壺	胴部	シカ	シカ	中期後葉	松山
25	樽味高木3次	壺	肩部	船	船	後期	松山
26	津田中学校構内	壺	肩部	人面?	その他	後期～終末期	松山
27	中村松田	壺	肩部	シカ	シカ	後期～終末期	松山
28	西石井	壺	肩部	ヒレ?	その他	後期	松山
29	西石井	壺	肩部	トリ?	その他	後期	松山
30	西石井	壺	肩部	シカ	シカ	中期後葉	松山
31	乃万の裏2次	壺	肩部	龍?	その他	後期	松山
32	乃万の裏2次	壺	肩部	龍?	その他	後期	松山
33	乃万の裏2次	壺	肩部	龍?	その他	後期	松山
34	福音小学校構内	壺	肩部	龍?	その他	後期	松山
35	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
36	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
37	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
38	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
39	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
40	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
41	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
42	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
43	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
44	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
45	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
46	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
47	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
48	福音小学校構内	壺	胴部	龍?	その他	後期	松山
49	文京	壺	胴部	船	船	後期	松山
50	文京	壺	口縁部	雷光?	その他	後期	松山
51	文京	壺	胴部	太陽?	その他	後期	松山
52	文京	不明	胴部	龍	龍	後期?	松山
53	文京	壺	胴部	矢負いのシカ	シカ	終末期	松山
54	文京	壺	胴部	建物	建物	終末期	松山
55	文京	壺	胴部	シカか建物	その他	終末期	松山
56	文京	壺	胴部	シカ	シカ	終末期	松山
57	文京	壺	胴部	シカ	シカ	後期	松山
58	松山北高等学校	壺	胴部	トリ?	その他	後期	松山
59	松山大学構内	鉢	体部	龍	龍	後期	松山
60	松山大学構内	壺	胴部	シカ	シカ	中期後葉～後期初	松山
61	松山大学構内	壺	胴部	トリ?	その他	後期	松山
62	宮前川	壺	胴部	家	建物	時期不明	松山
63	宮前川北斎院	壺	肩部	龍	龍	終末期	松山
64	宮前川北斎院	壺	胴部	四足獣+弧?	その他	終末期	松山
65	若草町1次	壺	胴部	龍	龍	終末期	松山

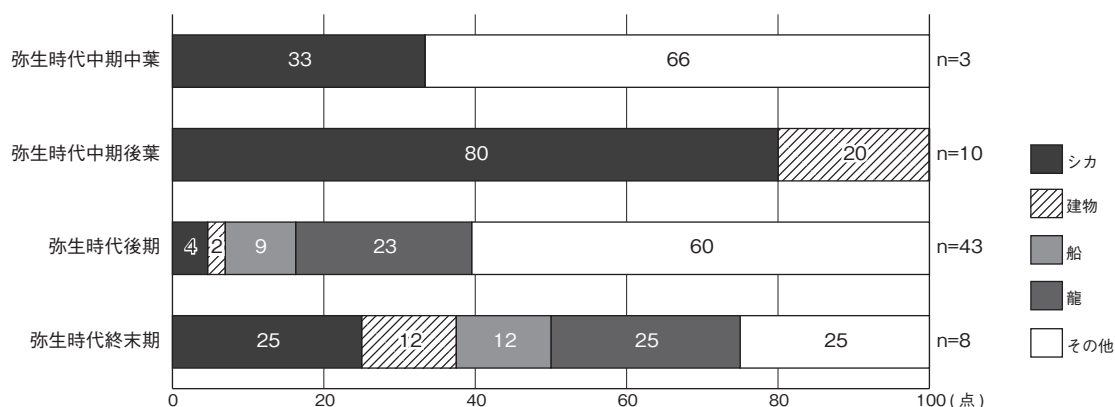


図3 時期ごとにみる図像の割合

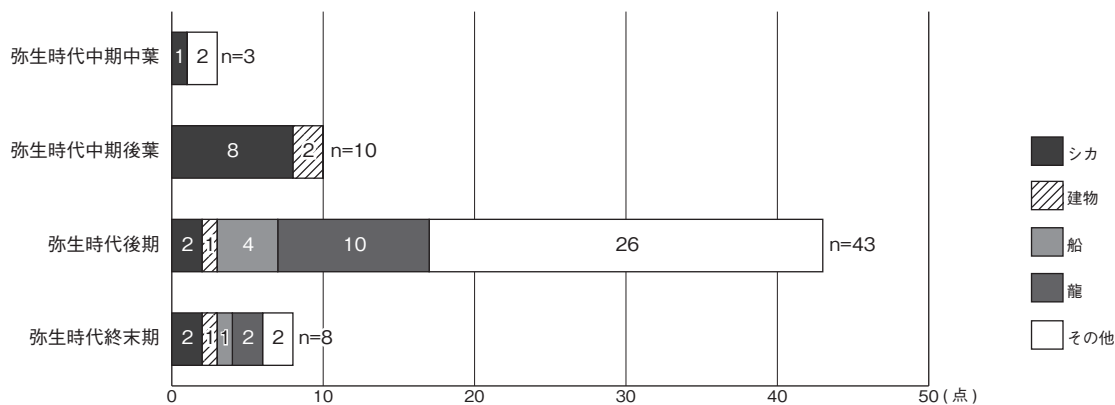


図4 時期ごとにみる図像の数

て多い。福音小学校構内遺跡出土の絵画土器は、すべて弥生時代後期であった。図像については他遺跡で類例のない「サカナのヒレ」「ブタの耳?」「龍」などと表現される同一の図像が複数出土しており、非常に特異的である。文京遺跡は弥生時代後期から終末期の土器が主で、図像のモチーフが特定困難なものも多くバリエーションに富む。これら3遺跡はそれぞれ今治平野、松山平野に位置しており、さらに福音小学校構内遺跡と文京遺跡は、柴田のいう久米遺跡群と道後城北遺跡群に位置している(柴田2009)。遺跡群という小地域に1ヶ所のみ絵画土器の集中する遺跡が存在するといえる。絵画土器が特定の遺跡に集中するのは、3遺跡ともに弥生時代後期で絵画土器の出土点数の増加時期と一致するが、出土の様相は前述の通り3遺跡で差異がありその様相は一概できない。おそらく、特定の遺跡に絵画土器が集中する要因や背景は、その遺跡によって多様であると推測される。

以上を整理する。愛媛県における絵画土器のうち図像が明瞭なものは、弥生時代中期中葉から出現し、終末期まで認められる。弥生時代中期中葉ではシカが出現し、中期後葉でシカや建物といった図像がみられるようになる。弥生時代中期中葉ではその他と分類した絵画がわずかに存在

するが、中期後葉では認められなかった。弥生時代後期になると絵画土器の出土点数が最多となる。シカや建物が減少する一方で船や龍が出現し、その他に分類される図像も増加するなど多様化がみられる。さらに特定の遺跡で絵画土器が多量に出土する点も後期の特徴である。弥生時代終末期になると、明瞭な図像をもつ絵画土器が減少するが、認められる図像自体は後期と同じく多様である。

したがって、愛媛県では弥生時代中期中葉に明瞭な図像が出現→弥生時代中期後葉に図像表現が最も具象的→弥生時代後期に絵画土器の増加・図像種類の多様化→終末期には明瞭な図像が減少、という変遷が想定される。近畿地域を中心とした全国的な絵画土器の様相として、弥生時代中期にモチーフや絵画表現が多様化、後期に図像のモチーフが減少したとし、その要因として中期後葉に明瞭化したモチーフの描き分けが、絵画表現の簡略化に伴って不明瞭化した可能性を示したという村田の説があり(村田2012)、愛媛県においても終末期に明瞭な図像が減少した背景として絵画表現の簡略化・記号化が起こった可能性がある。ただし愛媛県では弥生時代後期にそれ以前ではみられない図像が出現したほか、モチーフが特定できない「その他」が増加しており、図像モチーフの多様化と絵画表現の簡略化が当該期に生じた可能性が考えられる。

おわりに

本稿では、愛媛県で出土した弥生時代の絵画土器のうち、図像が明瞭なものを中心に集成し、時期や図像別に比較してその傾向を概観した。図像のモチーフはシカ・建物・船・龍など近畿地域を中心とした他地域でも認められるものが使用されており、明瞭な図像の出現と多様化、そして減少(=記号化?)するという一連の現象は近畿地域でみられる現象と同様であった。しかし、近畿地域では弥生時代中期後葉に図像の明瞭化・多様化、後期に不明瞭化・縮小化・記号化する(橋本2020、村田2012)のに対し、愛媛県では弥生時代中期後葉に明瞭化、後期に多様化・不明瞭化、終末期に減少化が起こっており、変化する時期に差異がみられることが明らかとなった。この要因について、本稿では近畿地域や愛媛県との地域間の様相まで検討ができなかったため、今後他地域との比較検討が必要である。

さらに、愛媛県で認められる特徴として、特定の遺跡で絵画土器の出土が集中し、その遺跡が小地域単位で点在しているという点があげられる。文京遺跡を一例とし、愛媛県における絵画土器が特定遺跡で集中する要因について考えてみたい。文京遺跡は前述の通り、弥生時代後期から終末期にかけて絵画土器の出土が最多である。文京遺跡は密集型大規模拠点集落と評価されているが、弥生時代中期に隆盛を迎え、後期には解体されるとあり(柴田2009)、集落の最盛期と絵画土器の出土量のピークが一致しない。また福音寺小学校構内遺跡や新谷森ノ前遺跡については、弥生時代後期において拠点集落であったという評価は現段階では難しい。したがって、愛媛県では絵画土器が集中する遺跡が流通や政治の中心的な集落であったとは断定できない。今後は集落研究の一属性として絵画土器を捉え、絵画土器が特定の遺跡で出土する要因、ひいては弥生社会の様相について検討する必要がある。

参考文献

- 梅木謙一 2000「中予」『弥生土器の様式と編年 (四国編)』木耳社
- 梅木謙一 2001a「絵画・線刻土器一覧」『松山市埋蔵文化財調査年報 平成12年度』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 梅木謙一 2005「伊予の絵画土器」『考古論集—川越哲志先生退官記念論文集—』川越哲志先生退官記念事業会
- 柴田昌児 2000「東予」『弥生土器の様式と編年 (四国編)』木耳社
- 柴田昌児 2009「松山平野における弥生社会の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』149 国立歴史民俗博物館
- 橋本裕行 2020「弥生絵画集成—中国・四国編—」『考古學論攷 : 榎原考古学研究所紀要』43 榎原考古学研究所
- 春成秀爾 2023「四国の絵画土器」『四国考古学の最前線 季刊考古学・別冊41』雄山閣
- 藤田三郎 2003「唐古・鍵遺跡と清水風遺跡の絵画土器」『何が歴史を動かしたのか 第2巻 弥生文化と世界の考古学』雄山閣
- 村田幸子 2012「弥生時代絵画の一断面」『日本考古学』第33号

絵画土器出典

- 1：阿方中屋遺跡：今治市教育委員会編 2001『今治市埋蔵文化財調査報告書62：阿方中屋遺跡3』
- 2：朝倉下下経田遺跡：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター編 2024『埋蔵文化財発掘調査報告書 第198集 朝倉下下経田遺跡 一般国道196号今治道路(湯ノ浦IC～朝倉IC間)埋蔵文化財調査報告書7』
- 3：新谷古新谷遺跡 整理中：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター編 2018「新谷古新谷遺跡2次」『平成29年度年報 愛比売』
- 4～13：新谷森ノ前遺跡：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター編 2024『埋蔵文化財発掘調査報告書 第204集 新谷森ノ前遺跡2次2 一般国道196号今治道路(湯ノ浦IC～朝倉IC間)埋蔵文化財調査報告書 11』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター／(公財)愛媛県埋蔵文化財センター編 2025『埋蔵文化財発掘調査報告書 第205集 新谷森ノ前遺跡2次2 一般国道196号今治道路(湯ノ浦IC～朝倉IC間)埋蔵文化財調査報告書 12』(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 14：別名寺谷Ⅰ遺跡：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター編2007『埋蔵文化財発掘調査報告書第139集 別名端谷Ⅰ遺跡・別名端谷Ⅱ遺跡・別名城ルノ谷遺跡・別名寺谷Ⅰ遺跡・別名寺谷Ⅱ遺跡』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 15：松原遺跡：愛媛県埋蔵文化財調査センター編 2006『埋蔵文化財発掘調査報告書第127集 松原遺跡』愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 17：天山2号墳 未報告：梅木謙一2001a「絵画・線刻土器一覧」『松山市埋蔵文化財調査年報 平成12年度』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 18：伊台惣部遺跡：梅木謙一2002『伊台惣部遺跡 松山市文化財調査報告書85』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 19・15：祝谷六丁場遺跡：宮崎泰好1991『祝谷六丁場遺跡 松山市文化財調査報告書24』松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
- 20：枝松遺跡：武正良浩 2008『枝松遺跡—7次・8次・9次・10次— 埋蔵文化財発掘調査報告書第125集』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 21：釜ノ口遺跡：水本完児2014『釜ノ口遺跡Ⅲ 9次・10次・11次調査 松山市文化財調査報告書174』(公財)松

山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

22：久米高畑遺跡：橋本雄一2015『久米高畑遺跡22次・41次調査 松山市文化財調査報告書179』(公財)松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

23：久米高畑遺跡：橋本雄一2012『久米高畑遺跡—38次・39次・43次・46次調査— 松山市文化財調査報告書158』(公財)松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

24：東雲神社遺跡：梅木謙一2001b『東雲神社遺跡 松山市文化財調査報告書79』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

25：樽味高木遺跡：梅木謙一・宮内慎一1994『桑原地区の遺跡II 樽味高木2・3次 樽味四反地2・3・4次 桑原田中2次 松山市文化財調査報告書46』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

26：津田中学構内遺跡：梅木謙一2001c『斎院の遺跡II—鳥越— 津田中学構内— 北斎院地内— 松山市文化財調査報告書80』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

27：中村村田遺跡：相原浩二2011『東本遺跡—9次・10次調査— 小坂遺跡—1～6次調査— 中村松田遺跡—5次・6次調査— 松山市文化財調査報告書153』(公財)松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

28～30：西石井遺跡：宮内慎一2005『東石井遺跡 西石井遺跡—1・2・3次— 松山市文化財調査報告書112』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

31～33：乃万の裏遺跡：加島次郎1999『乃万の裏遺跡 2次調査地 松山市文化財調査報告書72』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

34～48：福音小学校構内遺跡：梅木謙一1995『福音小学校構内遺跡—弥生時代編— 松山市文化財調査報告書50』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

49～57：文京遺跡：柴田昌児2016「愛媛大学埋蔵文化財調査室年報—2014年度—」『愛媛大学埋蔵文化財調査報告』XXIX、愛媛大学埋蔵文化財調査室／田崎博之2019『文京遺跡VII—1—文京遺跡第12次調査— 愛媛大学埋蔵文化財調査報告』愛媛大学埋蔵文化財調査室／田崎博之2013「文京遺跡VII—3—文京遺跡16次調査A区—」『愛媛大学埋蔵文化財調査報告』愛媛大学埋蔵文化財調査室／吉田 広2013「文京遺跡VII—4—文京遺跡16次調査B区—」『愛媛大学埋蔵文化財調査報告』愛媛大学埋蔵文化財調査室

58：松山北高等学校遺跡：伊藤直子1995『愛媛県立松山北高等学校遺跡埋蔵文化財調査報告書2 埋蔵文化財発掘調査報告書第55集』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

59～61：松山大学構内遺跡：山之内志郎2007『松山大学構内遺跡IV—6次調査地— 埋蔵文化財発掘調査報告書第115集』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター／宮内慎一1995『松山大学構内遺跡II—第3次調査— 松山市道後城北遺跡群 松山市文化財調査報告書49』愛媛大学・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

62：宮前川遺跡 未報告：梅木謙一2001a「絵画・線刻土器一覧」『松山市埋蔵文化財調査年報 平成12年度』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

63～64：宮前川北斎院遺跡：大滝雅嗣1986『宮前川遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書第18集』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

65：若草町遺跡：栗田茂敏1991『松山市埋蔵文化財調査年報III』松山市教育委員会文化教育課 松山市立埋蔵文化財センター

(2025年4月3日)